「出張授業」の紹介

＊対象学校種：　　中学校

1　博士号教員氏名	片桐　浩司
2　授業のタイトル	【観察】身近な植物の種類と分布をしらべよう

3　授業のねらい・育てたい力

野外での観察を通じて、生徒が学校や家のまわりなどの身近な環境に生える野生植物の見分け方の基本を身につけるとともに、各植物がどのような環境に生えているか観察する眼を養うことがねらいです。自然資源の豊かな秋田県において、自然環境を保全していくことの大切さを生徒たちに伝えられればと考えています。

4　授業の概要

授業を通じて、自然から遠ざかりつつある現代の生徒たちに、地域の自然を知ることの面白さや生きものの不思議をわかりやすく教えます。自然環境を理解するうえでは、野外における自然観察が何より重要と考えております。本授業を活用いただき、生徒たちが身近な自然に目を向けるきっかけづくりができればと考えます。

授業の実施手順

○野外観察に先んじて、まず屋内で植物種の同定の基本、標本採取の方法を説明します。このあとグループに分かれて（人数が少ない場合にはまとまって）、45 分程度、野外で植物を採取してもらいます。採取した植物はその場で同定します。また植物の同定のポイントや生えている環境の特徴などを解説します。観察後、屋内に移動し、採取した植物を用いて標本作成の方法を教えます。また地域の代表的な動植物と環境をいかに保全していくべきかについて、生徒たちと議論できればと思います。

○観察の場所について：ご要望に合わせます。通常、学校内は外来種の多い環境となりますので、学校の敷地に隣接して林や公園などがあれば、校内と合わせて野外観察の対象とさせていただければと思います（その場合、危険性の有無などを判断します）。

○本授業の実施は、基本的には植物の生えている期間に限られます。地域によって異なりますが、おおむね 5 月中旬～11 月中旬ごろとなります。山のある地域では、春には山菜の見分け方、秋には紅葉のしくみなども授業のなかで取り上げます。なお雨天の場合、パワーポイントと植物標本を用いた屋内での授業を行います。

5　必要機材等	PC、プロジェクター、古新聞、植物図鑑